



R. I. 第2630地区 **高山中央ロータリークラブ**
WEEKLY REPORT

2014～2015 年度 高山中央 RC 会長テーマ
 「心に響き 心に残り そして心が熱くなる」

◆会長 永家 将嗣 ◆幹事 高原 清人 ◆会報委員長 岩垣津 亘 ◆会報担当 岩本 正樹

創立 1991 年 5 月 20 日

◇事務局 高山市本町1-2

飛騨信用組合本町サテライト出張所 3階

TEL:0577-36-0730/FAX:0577-36-1488

◇例会場 ひだホテルプラザ 3F/TEL:0577-33-4600

◇例会日 毎週月曜日 PM12:30～

◇ホームページ <http://www.takayamacrc.jp/>

<出席報告>

	会員数	出席会員	出席	Make-up	出席率
本日 1019 回	53 名	52 名	38 名	—	73.08%
前々回 1017 回	53 名	52 名	47 名	1 名	91.31%

「高山 3RC 合同ガバナー公式訪問例会」

日 時：平成 26 年 9 月 18 日(木)12:30～
 会 場：ホテルアソシア高山リゾート

司 会：高山 RC 幹事 河合 清文 様
 点鐘……………高山 RC 会長 打保 敏典 様
 ロータリーソング……………「奉仕の理想」

<ゲストの紹介>

国際ロータリー第 2630 地区ガバナー
 石垣 智康 様

国際ロータリー第 2630 地区地区幹事
 水野 正信 様

国際ロータリー第 2630 地区
 濃飛グループガバナー補佐 兼松 政則 様

<地区役員の紹介>

国際ロータリー第 2630 地区
 パストガバナー 桑月 心 様

国際ロータリー第 2630 地区
 ガバナーノミニ 劔田 廣喜 様

国際ロータリー第 2630 地区
 広報部門委員会委員 伊藤 松寿 様

国際ロータリー第 2630 地区
 青少年育成小委員会委員長 永家 将嗣

食事

会長の時間……高山 RC 会長 打保 敏典 様
 歓迎の挨拶……高山西 RC 会長 田中 武 様
 ガバナーの紹介 ガバナー補佐 兼松 政則 様
 ガバナー卓話……ガバナー 石垣 智康 様
 謝辞……………高山中央 RC 会長 永家 将嗣
 点鐘……………高山 RC 会長 打保 敏典 様

<会長の時間> 高山 RC 会長 打保 敏典 様

本日、高山 3 RC 合同のガバナー公式訪問例会を開催させて頂きます。

石垣ガバナーをはじめ、水野地区幹事、兼松ガバナー補佐様にご臨席を賜り、心より感謝申し上げます。

本年度、未熟ではございますが、伝統ある高山ロータリークラブ会長を務めさせて頂きます



ゲイリー RI 会長は、本年度を「ベスト・クラス」(最高の年度)とすべく「ロータリーに輝きを」もたらすよう要請され、「世界の 120 万人の仲間がキャンドルに火をともしれば、大きな力になる。これによってロータリーは輝く。どのような火をともしかは、ロータリアンならだれでもわかっている筈である。」と述べられました。

これを受けて、2630 地区の石垣ガバナーは、「耳を傾け、ロータリーに活力を」と要請され、ロータリアン同士十分に話を聞きあう事、心に響き生涯の指針となるように耳を傾けること等々、こうした本年度のテーマを軸に、一人一人の力をロータリーに結集させようと述べておられます。

高山クラブとしましては、高山西クラブ、高山中央クラブと同様、会員の結束を更に高め、各委員会の活動を通じて会員間の意思疎通を図り、親睦を深め、楽しく内容のあるクラブ奉仕・例会に努めながら、職業奉仕・社会奉仕等に結実出来ればと考えております。

さて私は、今迄ロータリークラブの先輩方から、実に多くの事柄を学び、仕事や人生に必要となる多くのことを教えて頂きました。

例えば、「多くの人々から支持を得るより、一人でも二人でも本当に自分や仕事を理解し、信用してもらえたならば旨くやれる」「人や仕事の評価とは、自分や相手方の下すものではない。世間の第三者の評価こそが本物である。」「人生には一度か二度はターニングポイントがある。全てを失っても、必要となるもの(新聞発行用の紙)を必ず確保することだ」等々、こうした先輩方から学んだことは、私にとってかけがえのない無形の財産となっています。ロータリークラブの歴代会長も各人各様であり、例会では大声で笑ったり、成程と納得したり、切ない程辛い話であ

ったり、私自身、歴代会長の一年間を見聞きすることにより、その人生を共に過ごしたような感慨を抱いたものです。この一年間、今迄と同様、楽しいながらも緊張感の溢れた高山クラブを運営していけたらと念じております。皆様のご協力を宜しくお願い致します。

<歓迎の挨拶>

高山西 RC 会長 田中 武 様

国際ロータリー第 2630 地区ガバナー 石垣智康様、地区幹事 水野正信様、ようこそおいで下さいました。心より歓迎申し上げます。そして濃飛グループガバナー補佐 兼松正則様、地区役員の皆様、ご臨席有難う御座います。石垣ガバナーの地元、40℃越えの記録の有る多治見と、毎年のように-20℃を下回る日のある、莊川六廐地区を擁するここ飛騨高山では、気候風土すらも異なります。かように南北に長い岐阜県、そして第 2630 地区を縦断し、それぞれの特徴・文化や思いに『耳を傾け』、それぞれを活かしながら『ロータリーに活力を』与えるべく日々邁進されるお姿に、心からの敬意を表したいと思います。新年度が始まり二ヶ月余り、ガバナーが思い描かれたホップ、ステップ、ジャンプで言う所の、現在はホップ課題を見つける、時期であると認識しております。次のステップ、ジャンプへと引き継げるよう、本日のお話を心して拝聴したいと思います。石垣ガバナーにはこれからも引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、また併せて本日ご出席の皆様方の益々のご健勝と、第 2630 地区の発展を祈念しまして、意は尽くしませんが歓迎の挨拶とさせていただきます。



<ガバナー紹介>

濃飛グループガバナー補佐 兼松 政則 様

皆様、訪問の折には色々とお世話になりました。本日は高山 3 クラブ合同のガバナー公式訪問例会でございます。ここでガバナーをご紹介させていただきます。石垣智康ガバナー。2630 地区から出ておられて、多治見西ロータリークラブ所属でございます。職業は弁護士をされております。今年の活動計画に基づいて先程も会長が言われました、「耳を傾け、ロータリーに活力を。」をテーマで後ほど熱く語って頂きますので、皆様御静聴のほどよろしくお願致します。



<ガバナー卓話> ガバナー 石垣 智康 様

御紹介頂きました石垣です。高い所から大変失礼しますけれど、こうして皆様のお顔を見ますと、高山の方は人品に優れたすべて人格者に見えます。良い所に来たな〜と。先程、2 クラブの会長さんと懇談会をやりしましたけど、大変新鮮な気持ちで新しい課題に取り組んでいる姿を拝見いたしました。

先程、高山クラブの打保会長からブリーフ要旨をおっしゃったので、私はやや具体的に話すのが役目だろうと思っております。これから 30 分、お話をしてみたいと思います。ガバナー就任してから 2 ヶ月半が過ぎました。



初めは若葉マークでやっておりましたが、こここのところは太平洋の大海原へと船出致しまして、きっと荒波に揉まれると思いましたが、大変皆さん優しく穏やかに迎え入れて頂きまして、順調に船足を進めております。この 1 年間の遠洋航海になりますけども来年の 6 月 30 日まで皆さん宜しくお願致します。私の紹介につきましてはガバナーの友の 7 月号に私が入会した時に紹介して下さった先輩がプロフィールを書いてくれております。簡単に要約しますと、「大変堅すぎる。真面目すぎる。」という。高山の打保会長はきっと同じタイプだと思います。今では、私の名前は石垣ですが、角ばった名前前で画数が多くて、その石垣の角も年を取るにしたがってだんだん取れてきました。

職業は真剣に。ロータリーは真面目に。ですが、真面目すぎないようにやりたいと思いますので皆様宜しくお願致します。

本年度の RI の会長は台湾のゲーリー・C.K. ホァン氏です。この方は大変演出の上手い方でして、今年 1 月にガバナーになる為の義務教育がサンデイエゴである訳ですけども、その時の基調講演をされました。それが終わると後ろのバックスクリーンに大きな花火を打ち上げる模様が映し出され大変な爆音とともに一体何が起こったかなと思うと、映像が終わり、大きな声で「ライトアップロータリー!!」と叫ばれました。

その意味するところにつきまして、先程打保会長が要約されましたが、結局はロータリークラブの一人一人が輝く。一人一人が何をすべきかを其々がきちんと考えて欲しい。そうすればクラブも輝く、地区も輝く、ライトアップロータリー。というテーマであります。

その事に関しては後で少しその意義の述べさせていただきます。

私はこの方針を受けまして、帰りの飛行機の中で自分のスローガンをどうするか考えて参りました。

ホップステップジャンプという軽快なリズムがありますよね。これにならってホップで課題を見つけてステップで解決策を見つけジャンプで活力へと結びつけよう。ということで、「耳を傾けてロータリーに活力を」というスローガンにしようと思いました。

何があれば良いか? どういう風に改善したら良いか? 話し合っってロータリーに活力を生み出そう。これがライトアップロータリーというゲーリー会長のテーマに結び付ける道筋であります。

そんな訳で「耳を傾けてロータリーに活力を」を私の方針にする事にしました。

今、ロータリーに欠けているのは何と言っても活力です。その為にはロータリーの一人一人が輝く事が必要だと思っています。

私の RI におけるガバナーという立場について少し説明しますと、RI は 19 人の理事によって会議体が構成されております。その中で理事会で決めた事を執行する立場にある会長さんの決めたテーマを私が推進し広げるのがガバナーの役割であります。

そうした役割を担って、こうしてクラブにお邪魔している訳であります。

RI 会長のゲーリーさんの強調事項についてですけども、すでに地区研修協議会などでお伝えしております。

1 つにはポリオの根絶を目指したい。

2 つ目はロータリーの先進国において会員減少にみられる、そういう事に対して歯止めをかけ増強に転じて欲しい。増強の問題があります。

3 番目にはロータリーファミリーを強調されていました。ロータリーに直接的間接的に関係あるそういう人達を広く参加を求めたい。ロータリーファミリーを拡大していきたい。

青少年交換で送っている人、迎えている人だけではなくて、インターの方も、ローターの方もそうですし、その他に間接的に関係のあるロータリー家族、これらの参加を広く求めたい。

この 3 点でした。

そして新しく提案された事として、ロータリーデーを計画して実行してほしいとのことでした。私も日本では 34 地区ありますが、その時のエレクトはロータリーデーとはなかなか面白いね。地区に戻って各クラブにお伝えして協力を願えないだろうかという意見が多かったですね。ネーミングというのは大事でして、ロータリーデーという名を付けて広報してみるというのは大変良い事ではないかと思いました。

既にこの地区のこのクラブではロータリーデーを開催された所もあるように聞いております。

これだけすばやく計画を練って頂いて実践していただけるという事は私としても非常に感銘を受けております。ロータリーデーとはこの 2630 地区のグループやいくつかのクラブが集まって計画されているところが多いんですね。是非、このロータリーデーとは新規なプロジェクトですから単年度で終わる事なく続けてやっていくことが望ましいと思います。

これも継続性があるって初めてロータリーの認知度が生きてくる事だと思います。

ロータリーが今、RI が目指している 3 つの大きな目標があります。

1 つ目が公共イメージを上げる。ロータリーの認知度を高める。

2 つ目がクラブに対する支援活動を行う。

3 つ目が人道奉仕の問題。

RI が目指している 3 本の柱です。

この中の公共イメージを上げる。ロータリーをもっとよく知ってもらおう。ロータリーは良い事をしているんだけども、なかなか知られていないという事があります。

これにつきまして、従来、良い事をしていればその内、だんだん分かるよ。そんなに PR しなくて良い。これを陰徳説といきましょうか、そういう考え方が多かったのですが、このところ RI は PR 説というと商業的で具合が悪いかもしれませんが、良い事をしているなら広報をしようという所に軸足を置いています。

広報して良い事をすればロータリーが広まる。ロータリーが広まれば世の中が明るくなる。という事ですね。

やはり広報というのは非常に大事だと思います。それについては広報の目的と手段、方法について各クラブで考えてもらう必要があると思います。

RI 会長が特に強調しますのは、もうほんの少しまできたポリオの根絶ですね。これを RI としてはワールドテーマにしております。

ポリオの根絶の為に最後の努力を。というのが RI 会長の大きな要請です。

ポリオと言いますと、ロータリアンとかその他あまり日本では知られていませんけど、数十年以上前に日本でも流行した事がありまして、私の少年時代にそういう方がおられました。大変苦勞をされてですね、後遺症残しながら私どもと同じ仕事についておられる方もいらっしゃいます。本人の努力も非常に並大抵のものではなかった。ご家庭の環境も良かったのでしょう。ご家庭の後押しもありました。そういう事で一旦ハンディを背負ってしまうと、これは一生のハンディになりますね。これはやはり大変な問題です。ただ、これは専門医に聞いてみますと、ちゃんと免疫が出来れば罹らない。再発しない。そういう意味では取り組みやすいし、人間の一生のハンディをそれによって解決することが出来る RI が取り組んだ大変良いテーマだったと思います。

これもあと数年先に撲滅宣言が出来るという所まで来ているようでありまして。最近の報告ではこの半年の間にパキスタンで八十数例の症例が出ているようです。あとはアフガニスタンやアフリカ、ナイジェリアでは一桁の症例です。他の国にも少し飛び火している模様ですが、これは感染者が移動したのではないかとされておりまして。

なんとかここまでできたのですから、ポリオの伝染を食い止めて撲滅したい。もうちょっとの所までできています。

パキスタンでなかなか進まないのは難民キャンプですね。あそこは紛争地域がありましたので難民キャンプで流行しちやうたようです。

難民キャンプとは反政府組織が大変強い所で、昔 CIA がウサマ・ビンラディンを捜索する為にどうもポリオ治療犯に紛れ込んで行ったということで、なかなか受け入れが難しい為、パキスタンでは難航しているようです。

でも、あと少しという所までできているという事です。

そういったポリオについて撲滅された日本でニュースにならないという事は日本という国は大変幸せな国だと思います。

例えば、地球環境の問題ですと割と我々は敏感に反応しますよね。地球という薄い膜で覆われている生命体にどこか傷がつけば我々日本だって影響を受けてしまいます。

この平成の時代に 2 度の大きな震災がありましたよね。それについても震災の影響を受けなかった地球の反対側の国々からも援助を得ました。

世界でも最貧国のひとつと考えられているそういう国からの援助もあったんです。

そういう点から考えると、我々もグローバルで考える事が必要ではなかつと思うんですね。世界はどこかの国が必ず注目していてくれる事だろうと思います。

ゲーリーさんがポリオについて力を込めて言った事について私の脳裏に焼き付いている事があるので御紹介させて頂きます。

ゲーリーさんが決めた事は、ロータリーは最後まで貫く。ポリオを撲滅するまでは他のプロジェクトには手を出しません。ロータリーは人間の力で一つの病気を無くするところまでやるんだ。それこそがロータリーが誇りを持てる奉仕団体である。という事を明確に述べておられました。もしこれが出来たら医学史上に残る快挙ですよ。次の目標になるのは増強の問題です。実は私が活力と申し上げたのは最終的には増強に結び付けて、ロータリーに活力へと導きたい。という事でありまして。

増強を当地区の第一の目標にしたいと思っております。何故増強が必要かということは改めて言うまでもありませんね。

私は 34 年前にロータリーに入会させていただいたんですけども、その時ロータリーの事は何も分からないで、誘われるまま入会した訳ですね。所謂ノンポリだったんですよ。

こういったノンポリの人にロータリーを理解してもらう努力は必要じゃないでしょうか？こういった事で退会を防ぐ事にもなりますし、ロータリーの知識を一旦身に付ければなかなかロータリーは離れられないという事になっていくと思います。

ガバナー年度になりまして日本の増強アドバイザーの方から、「お前の年度は来年6月に何名にするんだ？」と督促をうけています。私ども根拠ある訳じゃありませんけども1クラブ純増1名を目的にすると、これを達成したいと答えております。

これを各地区、各クラブの目標であります。

ただ、なかなか増強というのは難しいものでありまして、率直に申し上げますと今年の6月30日の段階では全国で2300弱あるクラブの中で会員数が増えた330名ちょっとです。ですから1クラブ1名増えていないんですね。それほど増強というのは難しいのです。

我が地区では昨年の6月と今年の6月の段階で比べますと、マイナス6です。マイナス6と言いますとかなり減員幅が縮小してきました。これよりもボトムだと私は考えています。

今年度は増強に転じたいと考えておりますので、各クラブの会員全体で御支援頂きますようお願いしたいと思っております。

また同時に新会員を開拓する事も大事ですが、退会をされる方についてはやむを得ない方は別として残って頂きたい方に関しては退会防止に努めて頂きたいと思っております。

結局、ロータリーを充実させるには何かというとクラブの魅力を実感させる事だと思っておりますね。クラブの基盤を強くする。クラブの魅力を強くすれば辞めていく方も無くなるし新会員も増える。

よく何周年記念を迎えたから、俺はやることをやったから辞めていくという方がこの地区を回っているというようですが、ロータリーには卒業という事はありません。

例えば社会奉仕団体という風に考えますと、自分は十分に社会奉仕をしたからこれで卒業だという風になりますけど、慈善だけがロータリーの活動ではありません。こうして例会に集まって頂いて皆さんお互いに磨き合い会員の交流を図る事が一番の目的でありますから、卒業という事はありません。その辺についてロータリーは友情を重んじる団体でありますから、友情を大切にそれを育てて頂きたい。そう思います。

退会の原因についてはこれまでの調査でだいたい4つぐらいに分かれている様でありますけど、地区を回ってみますと4つの原因はかなり過去の事だと気がいたします。皆さんお互い会員は平等でありますし業務命令みたいな事はまず無いでしょう。ただ回ってみますと、こんな原因があるようです。

あるクラブの会長さんからは、親睦をやれ、親睦をやれと親睦ばかりがクラブの目標になっているきらいがあるのでそれを一部会員がそういう見解は良くないよ、間違いだよと言ってほしいというお話がありました。

本当に親睦という意味はあじを噛みしめて頂きますと、ゴルフだとか旅行だとか飲み会ばかりではありません。親睦とはそういう意味に使われる訳ではありません。友愛、寛容、そういうものが中心になって広がっていくものであります。

その辺りの所は高山3クラブに置かれましてはどうぞ無い様でありますから大変結構な事であります。

ロータリーの本当の良さに触れる事なく退会という事だけは避けて頂きたいと思っております。

たつのさんという方が増強リーダーでおられまして、この方がいつもおっしゃっておられ、ロータリーには3つの良い事がある。

一つがロータリーには人生を彩る出会いの機会がある。ロータリーによって交際を深められた方は非常に多いですね。

私どもが回ってきますと、何人かの方と知り合いになりますし、何人かの方の友達が増える事になります。ロータリーに入ってから良かったな。交流の機会が増える。真の友達が出来ることが第一点です。

二点目がすぐれた人生の指針を持っているという事です。よく御存じの様にもっともよく奉仕した者にもっともよく報われるとか、4つのテストとか、そういった優れた人生の指針を持っているという事です。

それから人道奉仕の一旦を担う事が出来るという事です。ポリオばかりではありません。ロータリーは人道奉仕に軸足を置いています。そういった人道奉仕の一旦を担う事が出来る。

この3つの点が他の団体には無い事だという事でありまして。

そういう事を我々は認識しながらこれから布教を進めるにあたって、新会員の方に対してもロータリーはこういった性格の団体だよという事を是非認識してもらえようようにして頂きたいと思っております。

本年度の重要な役割は増強です。増強といっても単なる数増やしではありません。本当にロータリアンになってもらえる方に入ってもらうというのが目的です。

何人かダツと入って何かの原因でダツと辞めちゃう。それは入会に問題があったのでしょうかね。本当にロータリアンになってもらえる方になってもう。これが増強の目的なのです。

ただ、数の問題ですけど、数は力だってことがありますね。今19人の中の日本の理事枠は2名です。ですがこのままでいきますと1名に減少してしまうのです。

これまで日本のロータリーの主張を、二人三脚で理事会で主張してきたのですが、1名枠になっちゃうと非常に力が弱くなります。日本のロータリーの価値観や主張がなかなか通らなくなってくる。という事を、この6月に任期を終えられた理事さんがそうおっしゃっていました。

確かに数千人や数万人のいる所では日本の主張はなかなか通りません。日本の主張は日本の目標とする10万人に手が届く所で、つまり本当のロータリーが始まる所で始まるのではないかと思います。そういう意味で数と言うのは非常に大事である訳であります。

ではここで2630地区の目標を再度確認しておきます。

RI会長の強調事項、要請には出来る限り応えて頂きたいと思っております。当地区は増強を戦略にしておりますので、ロータリーの良さを浸透し新会員の入会を図って退会の防止に努めて頂きたいという事を思案しております。

ロータリーを知ってもらう行事を企画して頂きたい。これはロータリーデーに関係いたします。すでにやって頂いているクラブもあります。これからって方はロータリーデーを是非企画して定着して頂きたいと思っております。

その上でかなり欲の深い事を申し上げますけど、新しい社会奉仕の事業にも挑戦して頂きたい。すぐれたものに対してはガバナー賞の対象にしたいと思っております。

次にロータリーの友について御紹介申し上げます。

7月号8月号9月号の縦組のページ。表紙裏をめくって頂くと、7月号の裏はビル・ゲイツさん。8月号の裏は歌手のジュディ・オングさん。同じポーズですね。二本の指であと少し。ポリオのない世界まであと少しという。顔写真入りでポリオ撲滅のキャンペーンを行っています。

9月号については私は知りませんでしたが国際的に有名なミュージシャンPSY(サイ)さん。この方も顔写真入りであと少しというポーズをとっています。

来年の 6 月までこういうキャンペーンを貼っていくと思います。

また逆のページの横組のページに注目して頂くと、同じようにポール・ハリスの写りが掲載されております。ポール・ハリスは多くの語録を残しております。7 月号では写真の下にこういう事を言っています。

「人間は通常辛抱をするという点で他の動物と異なります。人間の辛抱を長く抑える事の出来る唯一のものは洗礼です。」と、我々は洗礼に拘束されがちだと、洗礼の拘束性の問題ですね。それによって前進出来ない。やはりロータリーは進歩しなければならない。時代と共に変わらなければならないという事をこの語録を引用して RI は言っているんじゃないでしょうか？

8 月号ですが「ロータリーは友情の扉です。皆の為に扉を開け放ちましょう。」という語録が載っています。

9 月号です。また語録が代わります。「見つけようとさえすれば人生には必ず価値があります。その価値は銀行口座の中にはありません。他の財産の中にもありません。」

こういうポール・ハリスの語録がおそらく来年の 6 月号まで続くと思います。皆さん是非このポール・ハリスの眼差しが何処を見ているか、その人の語録と対照しながら噛みしめて頂きたいと思います。そういう事によってロータリーの友の中身を見てみようかという事になって頂けたらと思います。そういう意味でこの 2 つのキャンペーンを御紹介させていただきました。

丁度、時間になりましたのでこれで終わらせて頂きますけど、益々の高山 3 ロータリークラブの御発展と御活躍をお祈りしますと共に私への御援助を頂きたいと欲の深いお願いを申しあげました。

どうも御静聴ありがとうございました。



<謝辞> 高山中央 RC 会長 永家 将嗣

皆さんこんにちは、只今ご紹介を頂きました今年度高山中央ロータリークラブ会長の永家でございます どうぞよろしくお願ひ致します。

本日は 2630 地区ガバナー 石垣智康 様におかれましては遠路はるばるこの高山までお越し頂き、今年度の地区活動方針のテーマについてお話しいただきまして誠にありがとうございました。



2630 地区活動方針のテーマである「耳を傾け、ロータリーに活力を」は繊細な石垣ガバナーらしいテーマだと思います。私は地区の AG・CC 会議や懇親会などの場で石垣ガバナーと直接お話をさせて頂く機会がありますが、私たちの意見をメモを取られるなどいつも真剣に聞いて頂き、まさに耳を傾けて頂いていると感じております。

今回の卓話の中で活力を得る為には増強を第一優先に取り組むべきであるというご指摘がありました。この 2630 地区の昨年度の実績は前年度に比べ 6 名だそうです。ここ数年 5 月までは順調に会員数は増えてますが、6 月に入ると 110 数名退会されるという現実があります。これを食い止めるには新会員の入会は勿論ですが、現会員の退会も防止しなければなりません。この高山 3 クラブは今年度 未来の夢計画地区補助金を申請し何れも採択された現状があり、ロータリー活動にはとても前向きなクラブばかりです。

今後も高山 3 クラブが石垣ガバナーの期待にお応えできるように精一杯頑張っておりまして今後ともご指導の程 よろしくお願ひ致します。

本日はありがとうございました。



<ニコニコBOX>

公式訪問に伺いました。よろしくお願ひします。

ガバナー 石垣 智康 様
地区幹事 水野 正信 様

高山 3 RC の皆様、本日はよろしくお願ひ致します。

濃飛グループガバナー補佐 兼松 政則 様

石垣ガバナー、水野地区幹事、兼松ガバナー補佐のご来訪を歓迎致します。ご指導よろしくお願ひ申し上げます。

高山 RC 打保 敏典 様
高山西 RC 田中 武 様
高山中央 RC 永家 将嗣 様